	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
展示室 1	平野杏子展 - 生きるために描きつづけて			ザ・キャビンカンパニー 大絵本美術展			蕗谷虹児展					市展
展示室 2	1950～60 年代の日本画 造形への挑戦		つながるコレクション＋新収蔵品展				おしゃべり美術館 ひらビあーつま～れ 10 年記念展					
ロビー・テーマホール							中勘助展		古井彩夏展			

平野杏子展 －生きるために描きつづけて
HIRANO kyoko – A dedicated life for painting
4 月 6 日（土）～6 月 9 日（日）

平塚市在住の洋画家、 平野杏子（1930-）の本格的回顧展を開催します。 女性作家が少ない時代に結婚、 出産をへて育児と制作のはざまでたどりついた濃密な仏教思想や出身地・伊勢原の大山信仰に裏打ちされた原始へのまなざしによる代表作およそ 60 点によりその 70 年に及ぶ画業を振り返ります。

平野杏子《菩提樹の下のある日》1970年
当館蔵

ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展＜童堂賛歌＞
7 月 6 日（土）～9 月 1 日（日）

絵本作家ザ・キャビンカンパニー（阿部健太朗・吉岡紗希）の結成 15 周年を機に開催する初の大規模個展。『しんごうきピコリ』や『がっこうにまにあわない』などの絵本原画のほか、 立体作品や映像作品など、 彼らの幅広い仕事をご紹介します。 小さなお子さまからおとなまでどなたでもおたのしみいただける展覧会です。

ザ・キャビンカンパニー《童堂賛歌》2023年　作家蔵

蕗谷虹児展
10 月 5 日（土）～ 11 月 24 日（日）

蕗谷虹児（1898-1979）は大正時代から昭和時代にかけて少女雑誌の表紙絵や挿絵、絵本や童話の挿絵で人気を博しました。 文化や芸術が大衆のものとして浸透していく過程で、 出版界の花形作家として蕗谷が果たした役割は大きいものでした。 本展では、 60 年におよぶ蕗谷の画業を回顧します。

蕗谷虹児《『睡蓮の夢』カバー原画》1924年
蕗谷虹児記念館蔵

1950 ～ 60 年代の日本画 - 造形への挑戦
4 月 6 日（土）～ 6 月 2 日（日）

1950 ～ 60 年代にかけて日本画の変革が目指され、 欧米の絵画を参照した堅牢な造形や力強いマチエール、 抽象表現が取り入れられました。 本展では当館の所蔵品の中からこの時期に制作された作品約 50 点を展示し、 その造形的な特徴の一端をご紹介します。

北澤映月《花》1954年　当館寄託

つながるコレクション＋新収蔵品展
6 月 8 日（土）～ 9 月 8 日（日）

様々なつながりの中で成り立ってきたわれわれの社会は新型コロナの流行に伴い人々の関係が疎遠になってきた現状があります。 本展では改めて「父子」「師弟」「仲間」もしくは「個人・社会」「人間・自然」、 作品同士の共通点など様々なつながりに光をあて、 収蔵作品の新たな魅力を発見し、 地域や社会の来し方行く末を考えるよすがとしたいと思います。

今村紫紅《熱国之巻（小下図）》1913年頃　当館蔵

おしゃべり美術館 ひらビあーつま～れ 10 年記念展
9 月　21 日（土）～ 2025 年 2 月 16 日（日）

2015 年から平塚市内の小学生を対象に活動してきた「対話による美術鑑賞」の事業を振り返る展覧会。 所蔵品を中心に、 対話のみちびきとなるような作品を展示し、鑑賞会などを通じて対話型鑑賞そのものを紹介します。

工藤甲人《樹木のうた》1956年
当館蔵

中勘助平塚居住100年記念 中勘助の小宇宙（ミクロコスモス） －「銀の匙」と「しづかな流」
10 月 5 日（土）～ 11 月 10 日（日）

2024 年は、作家・中勘助（1885-1965）が平塚に居住して 100 年となります。 この節目となる年にあたり、2019 年朝日出版社から刊行された『銀の匙』に描かれた安野光雅による挿画を中心に、 平塚時代の生活を記した日記体随筆「しづかな流」（1932 年岩波書店から刊行）などを通して、 中勘助の日常への細やかな眼差しをご紹介します。

古井彩夏展
12 月 7 日（土）～ 2025 年 4 月 6 日（日）

彫刻家・古井彩夏（1988-）によるロビー展を開催します。 鉄やステンレスを用いて自然の曲線を基調とした伸びやかな造形を表す現代彫刻約 16 点によってその世界観を紹介します。陽光のそそぐ広いテーマホールを舞台としたロビー展で、 近年活躍著しい作家がつくりだす軽やかな空気感をご堪能ください。